

彩雲橋

中部地方の
選奨土木遺産

所在地：愛知県犬山市犬山北古券 竣工年：1929（昭和4）年
管理者：犬山市

認定理由：昭和初期の犬山の観光開発の中、郷瀬川と木曾川の合流点手前に架けられた
瀟洒な2連アーチ橋で、鉄道レールを用いた国内有数の土木遺産である。

令和3年度登録



下側から見た彩雲橋。写真上方には犬山城天守の屋根が見える。

彩雲橋は、犬山城（愛知県犬山市犬山北古券）の北東、郷瀬川が木曾川に流れ込む合流点にあり、犬山橋とライン大橋の間で円滑な交通の確保に貢献する鋼製レールブレースドリブアーチ橋で、1929（昭和4）年3月に竣工したものである。

1931年（昭和6年）に名勝指定された木曾川の周辺観光開発において、彩雲閣を中心とする犬山遊園地と日本ライン下りの終点ならびに犬山城とを連絡した。現在も犬山市内の主要道をつなぎ、地域交通に寄与する貴重な土木遺産である。

構造に鉄道レールを使用した日本有数のアーチ橋の例であり、その表面に「CARNEGIE 1911 ET II 60 R I」と刻印が遺されている。これは、1911年2月に米国のカーネギー社、エドガートムソン工場で製造されたレール単位重量が60（lbs/yd）のレールであることを示しており、発注者は未記入である。西野らの研究※によれば愛知電気鉄道（現名古屋鉄道株式会社）の初代レールと同種のものである。

これが屹立する硬い岩盤に軽やかに架かる風景は、名所・遊園地の風景を彩った。

※西野保行、小西純一、瀬上龍雄、日本における鉄道用レールの変遷 残存する現物の確認による追跡（第2報）、日本土木史研究発表会論文集、3巻、pp.126-135、1983



▲ 吉田初三郎による観光案内図に彩雲橋が描かれている。（○印箇所）（『彩雲閣ご案内』1929）



▲ 『彩雲閣ご案内』の裏面に掲載される「犬山おどり」の写真背景に彩雲橋の姿が確認できる（同上、1929）



▲ 彩雲橋に使われている鉄道レール表面「CARNEGIE 1911 ET II 60 R I」刻印



▲ 岩盤状の地盤を削りコンクリート製の橋台をしがみつかせるように一体化させ橋台にはアンカーが打ち込まれている



▲ 田島二郎氏橋梁写真集 A735（1994/3/30）「犬山のアーチ」土木学会デジタルアーカイブ